

新規血圧・血管指標 AVI・API と冠動脈病変の相関についての検討

The correlation between AVI, API and coronary lesion

○土肥 宏志、中島 理恵、峯岸 慎太郎、陳 琳、木野 旅人、杉山 美智子、菅野 晃靖、石川 利之、石上 友章 横浜市立大学医学部 循環器・腎臓内科学

【目的】動脈硬化を早期に発見し治療することは非常に重要な課題である。AVI、API はカフオシロメトリック法を応用した原理で測定できる、新規血圧・血管指標であり、AVI は、中心動脈を反映するといわれている AI と有意な相関を示すことが判明している。我々は、心臓カテーテル検査、治療を行うために入院した患者（N=139）において、AVI、API の測定を行い冠動脈の重症度との相関を検討した。

【方法】対象は、当院に 2015 年 7 月～2016 年 3 月の間に心臓カテーテル検査や治療目的で入院した患者 139 名で、平均年齢は 68.8 ± 15.3 であった。検査当日、臥位になった状態で 2 回 AVI、API を測定し、入院時の検査項目、心臓カテーテル検査所見との間の相関を、横断的に解析し検討した。

【結果】全患者で平均は AVI 32.9 ± 11.6 、API 31.9 ± 9.1 であった。冠動脈造影で有意狭窄（AHA 分類 75%以上）がある群（n=94）はない群（n=27）に有意に AVI (35.1 ± 11.0 vs 30.5 ± 10.1 , $p < 0.05$)、API (33.0 ± 9.5 vs 29.6 ± 7.7 , $p < 0.05$) とともに有意に高値であった。病変枝別では病変枝数が増えると、AVI、API とともに有意に増加した。（ $p < 0.05$ ）

【結語】AVI、API は有意狭窄がある群とない群で有意な差が認められた。治療適応となるような冠動脈病変を早期発見できる可能性が示唆された。病変指数別では病変枝数が増えると、AVI、API とともに有意に高かった。以上から、両指標ともに、冠動脈の重症度と相関している可能性が示唆された。